学校番号	104

令和８年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高校生の美術２」（日本文教出版）						
副教材等	教師作成のテキスト						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２年生の美術では美術Ⅰでの活動体験を基礎に、より深い知識と創造力を養うための表現をおこないます。
一人ひとりの思いや見方、感じ方はそれぞれです。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目し、自分なりの表現を深めていきましょう。違った見方を鑑賞する力を身に付け、さらに広く深く表現することについて考えることのできる能力を養っていきましょう。

2　学習の到達目標

（１）美術の幅広い活動を通して造形的な視点についての理解を深め、創造的に表現する能力を深める。
（２）表現の技法や意図を考え、創造的に発想し構想を練ることができる力を身に付けるとともに、価値意識をもって美術に対する見方を深める。
（３）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化に親しむ態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、表現方法の創意工夫をして個性豊かで創造的に表現している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫をして表現するとともに、主題を生成し個性豊かな発想で自己の価値観を高めたり、見方感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	導入『表現とは何か』	・オリエンテーション 教科書を鑑賞し、「美術Ⅱ」の学習イメージを持つ。 年間の学習内容を示す。 ・人物クロッキーⅡ 生徒相互がモデルになって互いの顔のクロッキーをおこなう。 骨格や各部の比率などを確認しながら、線だけでなく陰影による立体感の鉛筆描写なども学習する。 毎授業開始時におこなう。(一学期)	a: クロッキーの目的を理解し、鉛筆の特性を生かした表現を身に付けている。 b: 対象を見つめて形体の特徴をつかみ、立体感を表現できている。 c: 美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。	スケッチブック	スケッチブック	授業観察
	絵画・デザイン『自画像』	・パネル水張り 水張りの目的と方法を理解する。 ・自分の顔のスケッチ 鏡でよく観察し、いろんな角度から捉えてみよう。 アクリル絵具による表現① ・「空想の○○を身につけた自画像」 空想の○○(例えばマスクなど)を身につけているという想定で自画像を描く。また、そのデザインも考える。 ・アクリル絵具について 特性と他の絵具との違いについて理解する。 色彩効果や色のバリエーションなどについて、教科書を参考に学ぶ。 ・グラデーション 背景を任意の2色のグラデーションにベタ塗りする。	a: 絵具の特性を理解した使い方が身に付いており、厚塗りや絵具の重なりによる表現、にじみ、ぼかしなどの表現も取り入れている。 b: 画面構成や配置、バランスを考えた構図が取れており、自身をよりよく観察し、リアルな表現ができている、 デザイン面にも自己を投影するような意匠がされている。 c: 自己と向き合い、自身の内面性をじっくりと見つめ、色彩で表現しようと意欲的に取り組もうとしている。 色彩についての理解を深め、近似色や反対色、明度や彩度の違いに反応して色彩表現の奥深さを味わい、自己と他者との見方や感じ方などの違いを認めている。	作品 制作の様子	作品 スケッチブック 制作の様子	制作の様子

2	描写	・身近なもののクロッキー 鉛筆による描写 毎授業、時間を決めてクロッキーや細密描写などをおこなう。(二・三学期)	a: クロッキーの目的を理解し、鉛筆の特性を生かした表現を身に付けている。 b: 対象を見つめて、形体の特徴をつかみ、量感や質感を表現できている。 c:基礎的な静物の描写からものの読み取り方、表し方を習得し、これからの美術表現に繋げるための意欲を高めている。	スケッチブック	スケッチブック	授業観察
	平面・半立体『抽象画』	アクリル絵具による表現② ・「令和に起きた出来事」をテーマに抽象的絵画を描く。 ・テーマを考える 自身が最も記憶に残った、心が動いた出来事や事件などについて、感じ取った心情もあわせて書き出す。自己の複雑な感情について考察する。 ・ワークシート 感情を抽象的なかたちや線で置き換えて表現する練習をおこなう。 ・抽象とは 教科書を鑑賞し、抽象的な表現について学ぶ。 ・下書き ・マチエール モデリングペーストを使ったマチエールつくりに挑戦する。 ・色彩 アクリル絵具で感情を色彩豊かに表現する。マチエールを生かした彩色を工夫する。 ・作品タイトル・サインを考える 作品の一部として余白部分に書き込む。 ・相互鑑賞	a: 画材の特性を生かし、表現を工夫しており、絵具の多層的な重ね塗りを表現に生かしている。 b: 自身の思いや感情から得られるものを感性豊かな発想で、構図や配色などを試行錯誤して構想を練っており、描きたい主題を創造的に表現できている。 c: アクリル絵具の特性を生かして抽象的表現をおこなうことに関心を持ち、表現に主体的に取り組もうとしている。 マチエールつくりの目的と方法を理解し、紙の表面の凹凸が生む色の変化に反応して美しさを創造的に味わっている。	作品 制作の様子	作品 アイデアスケッチ 制作の様子	制作の様子

3	立体・彫刻『粘土造形』	・「架空の生物」をテーマに石粉粘土を使った立体造形をおこなう。 この世に自分しか存在を知らないオリジナルの架空の生物を創造してみよう。 生態的特徴などについても詳細に設定する。 ・三面エスキース 三方向からのエスキースを丁寧に描き、立体作品にしていくイメージを持つ。 ・骨組み 設計図から正確に骨組みを制作する。 ・粘土成形 石粉粘土の特性を理解し、ヘラ、彫刻刀、やすりなどの道具を使って、かたちや質感を確認しながら成形する。 ・塗装 さびカラーを使った金属風の塗装に挑戦する。 ・相互鑑賞 作品を展示して、みんなで鑑賞してみよう。	a: 粘土の特性を理解し、対象物の量感に合わせいろいろな方向から形を捉えており、ヘラなどの道具の使用方法や効果的な使い方が身に付いている。 b: 自由で独創的な発想で架空の生物を創造できており、見る方向や量感を考えながら表現の工夫ができている。 c: 粘土の可塑性に関心を持ち、立体物の造形表現に積極的に取り組もうとしている。 制作工程をよく理解し、平面から立体に置き換えるという行為をおこなうことで空間的な認識力が高められており、一から創造することの難しさと楽しさを味わっている。	作品 制作の様子	作品 設計図 制作の様子	ワークシート 制作の様子

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度